

《議題1》

前回意見の振り返り

第1回清須市緑の基本計画策定委員会（令和7年8月6日）における主な意見は以下のとおりです。

No	第1回策定委員会での主な意見
1	<p>〈かわまちづくり支援制度の活用〉</p> <p>○国土交通省で、川を利用して町を活性化することを目的とした「かわまちづくり支援制度」がある。市が住民のニーズを汲んで国に投げかけられれば、国も支援できると思う。そうした制度を活用していけば、緑を増やしていくと思う。</p>
2	<p>〈防災機能を持つ農地の保全〉</p> <p>○農地は、一時的な雨水貯留機能などがある。防災上の機能を持つ農地の緑の確保は、維持していく取組をしてほしい。</p>
3	<p>〈緑の維持管理の向上〉</p> <p>○公共的な空間の緑の管理は行政がより力を入れるべきだと思う。</p> <p>○除草作業をしていると、雑草が管理されていない状況が見える。緑の基本計画に維持管理の内容を入れ、雑草などの管理を向上してほしい。</p> <p>○草抜きをする際に、どこまでが公共地なのか線引きが難しく、草を取っていい範囲がわからない。方針としてどこまで草を取っていいのかわかると良い。</p>
4	<p>〈包括施設管理制度の活用〉</p> <p>○緑に手間をかけると綺麗だが、維持管理にお金がかかる。コスト管理の一環として、公共施設で行っている包括施設管理制度などを緑の分野で取り組むことができるのか検討してほしい。</p>
5	<p>〈緑地の有効活用〉</p> <p>○清須市では、旧市町の拠点や祭りを継続・維持しているが、イベント時の駐車場問題がクローズアップされている。多様な需要に対応する緑の環境づくりとして、週末の企業用地や市の施設の駐車場などを活用して、駐車場問題に対応できる緑地を計画してもらえると、イベントなども実施しやすいと思う。</p>
6	<p>〈事業者への緑のきっかけづくり〉</p> <p>○事業者からも役に立ちたい気持ちはあるが、どうすれば良いかわからず躊躇している部分がある。行政側から声をかけるなど、きっかけづくりをしてもらうと協力しやすい。みんなでやるという雰囲気を作っていくことが大切だと思う。</p>
7	<p>〈あいち森と緑づくり事業の活用〉</p> <p>○あいち森と緑づくり事業に関して、清須市の応募件数が少ないため、そうした制度があることを市民に周知する機会としても活かせると良いと思う。</p>

No	第1回策定委員会での主な意見
8	<p>〈緑の管理に対する市民への意識付け〉</p> <p>○公共でも企業でも緑の管理をする部署が維持管理をするべきという意識が強いため、「自分事化」することが大切だと思う。</p> <p>○公共空間の草取りは市任せになるため、自宅の周りは自分で草取りを行うなど、市民に意識付けられると良い。</p>
9	<p>〈環境学習の実施〉</p> <p>○植樹体験などで、子どもたち自身が「自分が植えた」と思う気持ちが大事だと思う。</p> <p>○農業体験などを企画して、子どもも含めて参加してもらうなどの活動を継続してほしい。</p> <p>○みずとぴあ庄内の河川敷は、清須市と他団体が協力して、環境学習の場として活用している。そのような活動を継続し、緑を減らさずに利用して維持することが重要だと思います。</p>
10	<p>〈生産緑地の指定の再検討〉</p> <p>○生産緑地法の改正により、生産緑地面積の指定要件が 500 m²以上から 300 m²以上に引き下がった。清須市でも制度を活用できるよう緑の基本計画で再検討してほしい。</p>
緑の基本計画全体について	
11	<p>〈他部局との意見交換〉</p> <p>○緑は農地や生物多様性、環境など他部局に関わる内容も多いため、他部局との意見交換などをしてはどうか。</p> <p>〈計画期間について〉</p> <p>○計画期間が8年というのは、先が見えている長さとしては良いが、緑づくりの観点だと短い気がする。計画期間は8年としても、その先の将来的な姿をもう少し長い目で描けると伝わりやすい計画になると思う。</p> <p>〈目標の設定について〉</p> <p>○目標を実現可能な範囲で設定した方が良い。人口密度が高くなるにつれ、市街地のどこを緑化するかを決めていくことが大切だと思う。</p> <p>〈市民や事業者の役割について〉</p> <p>○行政主導の取組はできるが、民間事業者主導の取組はなかなか進まない。計画で書ける範囲で市民や事業者に期待する役割を入れると、市からのメッセージになると思う。</p>